

1000年に一度の大津波から町を守る ～小さな町の大きな挑戦 静岡県・吉田町～

課題

町では東日本大震災後に大津波の浸水シミュレーションを行った結果、最大8.6mの津波が到達し、町域の約40%が浸水すると想定されました。

引き続き町民や企業が安心して生活や企業活動ができるよう、1000年に一度の大津波の浸水を防ぐ対策を行うことが喫緊の課題です。

目指す姿

—シーガーデンシティ構想—

○津波防災まちづくりによる「新たな安全」の創出

- ・命を守る対策【15基の津波避難タワー（整備済）】
- ・財産、生産活動を守る対策【海岸防潮堤、漁港多目的広場（一部整備済）】
など

○沿岸部における「新たな賑わい」の創出

- ・海岸防潮堤や漁港多目的広場及び周辺用地等の有効活用による交流の活性化
- ・津波防災まちづくりによる「新たな安全」を基盤とした沿岸部への企業誘致
など



←→ 整備済区間
←→ 未整備区間



高さ11.8mの海岸防潮堤（整備済区間）

企業様へ

地震等の自然災害はいつ起こるかわからないため、一刻も早く万全な備えをしておく必要があります。吉田町では、いち早く津波防災に取り組み、平成24、25年度の2か年で15基の津波避難タワーの整備を完了しました。

現在は、大津波の浸水を防ぐため、国の基準を上回る11.8mの高さの防潮堤整備に取り組んでいます。早急に万全な備えを完了し、住民、企業の皆様が安心できる環境が整備され、沿岸部に賑わいが生まれるよう、当町の取組に賛同していただける企業様からも御支援をいただければ幸いです。